

令和5年度 第2回 川崎市立中学校の部活動に係る懇談会摘録

- 1 開催日時 令和6年3月19日（火）午後6時30分～午後8時20分
- 2 開催場所 高津市民館12階 第6会議室
- 3 出席者 委員 岩井沢委員、和委員（オンライン参加）、小長井委員、齋藤委員、田中委員、辻委員、中山委員、藤田委員、森島委員
事務局 小澤学校教育部長、小竹健康教育課担当課長、里見健康教育課指導主事、佐原健康教育課担当係長、川里健康教育課担当係長、鈴木健康教育課職員
- 4 次第
 - 1 開会
 - 2 挨拶
 - 3 「第1回川崎市立中学校の部活動に係る懇談会」の振り返りについて
 - 4 内容
 - (1) 「部活動の実態調査」の結果（速報）について（公開）
 - (2) 「休日の部活動の地域移行」拠点校の実践研究報告（公開）
 - (3) 関係団体への意見聴取の報告（公開）
 - (4) 令和6年度の予定について（公開）
 - (5) その他（公開）
 - 5 次回の予定
- 5 傍聴者 0人
- 6 内容

小澤学校教育 部長 司会 事務局	<p><挨拶></p> <p><資料1に基づき、説明></p> <p><事務局より資料2に基づき、説明></p>
齋藤委員	<p>よく取れているアンケートだと思いました。今後、クロス集計の分析結果から様々な方向性が見えたところで、土日の指導や専門的な指導をどうするかを検討していきたいです。今回のアンケートは今の部活動についての回答となっていますが、今後、他の国や他の市と比較した情報も入れていくと、別の問題点が見えてくるのではないのでしょうか。</p>
小長井委員	<p>経験のない教員が半数いるとのことで、さぞ苦勞されていると思います。やはり、専門的な指導者が求められるということでしょう。生徒は部活動をもっと熱くやりたいのかと思っていましたが、「ゆるくやりたい」という意見が印象的でした。</p>
藤田委員	<p>市民劇団を企画運営しています。以前は中学校に進学すると部活動が忙しくて劇団を辞める子どもも多かったのですが、今は部活動にも休日があるから「別の活動をもう一個できるのが嬉しい」という子どもたちの声を聞きます。アンケートの結果は納得しました。サッカーの話になりますが、部活動</p>

	<p>は人格形成のツールとしても貢献しており、クラブチームのユースではスキルのみの習得なので、プロの選手になった時の資質にも影響がある、と聞いたことがあります。部活動を地域に移行する際、スキルはなくても日常的に見守ってくれる大人の存在の影響も大きいと思います。</p>
<p>中山委員</p>	<p>アンケートは本音で答えている、と感じました。生徒は、部活動を楽しみたい派とうまくなりたい派に二極化しており、親はスキルよりも人格形成を重視する傾向があるようです。部活動はスポーツクラブのようにプロを育てるものではないので、教員も負担を感じているのではないのでしょうか。一方で、皆で切磋琢磨して達成するという部活動の経験も大切に意義あることだと思います。</p>
<p>岩井沢委員</p>	<p>生徒、保護者、教員の思いが若干ずれている、と感じました。生徒の「気軽に」「楽しみたい」という意見が多いことは意外でした。多くの保護者は、中学校に進学して親の手を離れ、学校にお任せしたいと考えていると思います。教員からは、「保護者に引率等任せたい」という回答もありましたが、保護者側にも負担はあり、今後は関係者間のすり合わせが必要で、結果として子どもたちが楽しめる部活動を大人の手で作っていかれたらと思います。</p>
<p>田中委員</p>	<p>部活動を設置している立場で、「楽しい」と言っている生徒が多いこと、教員が負担に感じていることの間で、どうやっていったらよいかを改めて考えさせられたのが一番の感想です。生徒にとって「楽しい」がどこからくるものなのか、勝利だったり発表だったり、様々だと思いますが、子どもたちが活動を通じて、楽しむためにどうしたらよいか、を追求していくようになるのが一番大きいことだと思います。</p>
<p>辻委員</p>	<p>生徒の活動の充実、教員の負担軽減、両立するのは難しいと感じます。地域のクラブ活動が専門的な活動を担い、学校の部活動が同好会的に楽しむ、というように線引きしていくことになるのでしょうか。部活動そのものを変えていく必要もあるだろうし、地域のクラブ活動を充実させていくことも検討が必要です。また、そうした環境整備を進める上で、お金の確保が必要です。</p>
<p>森島委員</p>	<p>さまざまな意見が出ることを想定していましたが、実際、生徒間、保護者間でも活動日数の多寡で真逆の意見が出るなど、率直にどこに合わせていったらよいか、考えてしまいます。部活動の検討は「子どもたちのために」が一番大事なところで、そこはブレてはいけません。そのためには、子どもと顧問との間での合意形成が大切です。また、「学校の先生だから任せている」という保護者の声も多く、今後地域クラブにおいて、教員でない指導者には任せられない、費用負担が発生するなら不参加と考える保護者の皆様もいると考えられ、本当に難しいと思います。</p>
<p>和委員</p>	<p>部活動は誰のためのものなのか、を考えたいです。保護者の期待が強い一</p>

事務局	<p>方、教員は現実との葛藤があることがわかり、今後、川崎モデルがどこに視点をおいてやるのか、アンケートを踏まえて議論できればと思います。</p> <p>既存の部活動の実態把握という目的で行ったアンケートです。今後、クロス集計による分析を行ってまいります。また、部活動をやっていない生徒の声も聞きたかったので、ズレにも着目して、懇談会を通じて視点の置き方を考えていきたいと思っています。</p> <p><事務局より資料3、4、5に基づき、説明></p>
辻委員	<p>拠点校での実践研究は大事な取り組みで、専門的な指導を受けたいというニーズ、先生方の休日の負担軽減という目的をある程度果たしていると思います。指導員がなかなか見つからないという課題があり、今年度は派遣開始も遅くなりましたが、早い時期から実施していけば、実践研究のアンケート結果も変わってくるのではないのでしょうか。</p>
田中委員	<p>西中原中学校では演劇部の実践を行いました。開始が9月からだったので、3年生も引退し、あまり指導回数を増やせず、指導者との信頼関係を築くのも難しかったのですが、専門指導を受けたことで、生徒の技術向上の効果はあったと思います。文化部は校舎内での活動なので、場所の課題は引き続き残っており、顧問の先生方も心配で手放すことが物理的に難しい側面もあると思います。</p>
小長井委員	<p>吹奏楽に熱心な学校は以前からプロの指導者を招いて部活動指導をしていますが、保護者の理解が必要であるとともに、お金がかかる問題があります。また、学校間で活動や技術力に差が出てしまいます。</p>
藤田委員	<p>拠点校での実践研究において文化部でもアンケートを取ると、もう少し熱量が低い回答となるのではないのでしょうか。生徒にとっては教室での自分を知ってくれている大人が活動を見てくれる安心感もあり、スキルだけしか見ていない指導者だと、辛い思いをする生徒もいると思います。演劇の場合、各校ごとの部活動により活動内容も異なるので、指導者が来て教えればできるというものでもありません。ただし、プロの指導者が入ると演技が向上するのも事実です。本来の部活動は何のためにやるのかも考えつつ、画一的にやり方を決めるのは厳しいと思います。</p>
中山委員	<p>総合型地域スポーツクラブがもっと実践研究に参加するものと思っていました。もう少し地域のスポーツ資源を使ってもらいたいです。すぐに中学生を指導できるかという点、部活動指導に慣れておらず、人材も潤沢ではないかもしれませんが、地域の団体も関わることで強くなっていける側面もあります。また、マッチングについてはスポーツ協会もお役に立てると思います。</p>
岩井沢委員	<p>市PTA連絡協議会から5月に要望書を提出した中に、部活動に関する内容</p>

	<p>もあります。「部活動のお金がない」という保護者の意見が多いです。吹奏楽部だと古い楽器の修理だったり、他の部活動だと遠征費用などが負担です。部活動についての公費負担は各校均一してあるのでしょうか。</p>
事務局	<p>遠征費は、サポート奨励金という制度があり、上位大会出場時の、移動、宿泊の補助を行っています。消耗品については、部活動推進用具整備費という予算があり、規模に応じて各学校に予算を配当しています。</p>
岩井沢委員	<p>部活動に関わる人員を増やしてほしいという保護者の声も多いです。</p>
事務局	<p>部活動指導員という会計年度職員について、今後、複数配置校を着実に増やしていく予定です。</p>
岩井沢委員	<p>子どもたちが2年ちょっとの活動期間を楽しく過ごせるよう、先生方の働き方についても、もう少しお金があれば解決できるのではないのでしょうか。</p>
齋藤委員	<p>海外のスポーツクラブと比べたとき、今までは部活動が、地域のクラブ・競技団体が本来持つべき「競技力強化」の役割を果たしてきた経緯があります。地域スポーツクラブ等の受け皿をしっかりと育成し、地域のスポーツ資源の開発と改革を同時進行で進めるべきだと思います。また、多様な種目を経験すると競技力向上に繋がるというデータもあります。</p>
森島委員	<p>日本のスポーツは部活動が支えてきた歴史があります。今、「部活動の地域移行」については人材や受け皿不足の課題があり、結局教員に頼らざるを得ない現状です。教員が兼業するのは労働時間の制限上難しく、国の予算も減っており、さまざまな課題が混在していて、本当に難しい課題と感じています。できることは何かを探していくしかなく、子どもたちがやりがいを感じて、楽しみにしている活動を奪ってはいけないと思います。</p>
和委員	<p>来年度予定の対話形式の意見交換について、音楽祭で繋がりのある近隣の小学校、中学校、高校を本学に呼んで、各年代の子どもたちの多様な声を聞く場を夏頃に設定させてもらえれば、と思いますが、いかがでしょうか。</p>
事務局	<p>ぜひご協力をお願いしたいと思います。また、今日皆様からいただいた御意見を踏まえて、今後も取り組みをすすめていきたいと思っています。</p>
小澤学校教育部長	<p>部活動を何のためにやるのか、という視点は外せないと思います。引き続き、取り組みを進めてまいります。</p>
司会	<p>以上をもちまして、第2回川崎市立中学校の部活動に係る懇談会を終了とさせていただきます。ありがとうございました。</p>